

未来への協働

2024年3月13日(水) 第385号

発行所 未来への協働
〒577-0023 大阪府東大阪市荒本2丁目14-5
電話/FAX (06) 4306-3512
郵便振替 00940-8-213061
Eメール mirai_newsroom@yahoo.co.jp
●発行人 山本 康

●第2・4水曜日発行
●200円(本体182円)
●定期購読 購読料(送料別)
1月 400円(送料188円)
半年 2,400円(送料1,128円)
1年 4,800円(送料2,256円)

今号の主な内容

- 2面 寄稿 郵政労働運動の課題 ①
- 3面 大阪維新 教育破壊と強権支配
- 4面 現実が語られない日本 孫崎亨さん講演
- 5面 凍土壁で地下水汚染は止められない
- 6面 戦雲に抗する「埋もれ火」

紙面へのご意見、ご感想を。詩、短歌、川柳、写真なども募集しています。



https://kyodomirai.org

避難の権利が命を守る

原発賠償訴訟 国は事故の責任を取れ

2011年3月11日の 都訴訟の第21回期日が、原発震災を経験し避難 3月1日、大阪高裁で開 してきた人たちが、「被 かれた。裁判は次回5月 曝から逃れる権利」「原 22日で結審する。

原告と支援者たちは開

裁判所正面入口前の公園に集まった支援者たち=3月1日、大阪市北区



裁判所正面入口前の公園に集まった支援者たち=3月1日、大阪市北区

「認めて避難の権利 子どもの未来を守ろう」「最高裁の不当判決覆せよう」というコールを裁判所に響き渡らせた。

た「溢水勉強会」にか んする一審準備書面補 足である。「勉強会」を 立ち上げる前の段階で は、国は電力会社に津波 に対するAM(Accident Management) 過酷事故に 備える対策)を講じさせ る方針であった。ところが東京電力が「勉強会」

推定された年間累積線 量が20mSvを超えない、 ②インフラと必須公共 サービスが当該地域で再 建されている、③政府、 県、市町村、住民の間で 協議が行われている、の 3点を示した。そして福 島県外の公的住宅からの 追いだし訴訟を受けてい る避難者がいることにつ

即時停戦の実現を ウクライナ・パレスチナ



ウクライナでは東部戦線をはじめとしてロシア軍との激しい戦闘が続いている。またガザのパレスチナ人の犠牲者は3万人を超え、停戦交渉も行き詰まっている。こうした中、ロシアによるウクライナ全面侵攻から2年目となる2月24日、大阪市内でウクライナとパレスチナの平和を求める行動が行われた。しないさせない戦争協力関西ネットワークなどが呼びかけた。正午からロシア領事館に抗議・申し入れを行った後、扇町公園で集会(写真上)、市内をデモ行進した。

「モリ・カケ。 サクラ」という 言葉を覚えてお いでだろうか。 言うまでもなく 森友学園、加計 学園、桜を見る 会をめぐる一連 の政治スキャンダルのごとだ。いずれも時の政権が吹き飛んでもおかしくない事件だったが、訴追されたのは事件に安倍晋三・昭恵夫妻が関与していたことを証言した籠池泰典・諄子夫妻だけだった。二人は実刑判決を受け現在服役中だ▼そして今回の自民党の裏金問題。安倍派は20年前から続けていたという。果してこれが民主主義国家なのか。もはや真面目に怒る気にもなれないという向きもおられるだろう。▼民主主義にとって選挙は必要条件かもしれないが、十分条件ではない。世間では「独裁国家」と呼ばれる中国やロシアでも選挙は行われている。大事なのは代表を選ぶことではない。自分の生き方は自分が決める。これが民主主義の基本だと思

国と東電に一撃を

裁判終了後の報告会で はじめた。しかし放射能

の恐怖や避難をめぐって 鬱病になり、転職を繰り返している。自分がだめなのか考えたこともあったが、やはり原発事故が発端だと思

「なかかったことにされ たくない。裁判で自分の 証言を残したい」

(池内潤子)

安全基準を逸脱

一つは、2006年に原子力・安全保安院(当時)などが立ち上げ

国連勧告を無視

もう一つは「政府の国際人権に対する義務」に

空間線量率に基づいて

ダマリー報告者は、避難指示解除基準として、

寄稿 郵政労働運動の課題 ① 格差是正逆手に攻撃

日本郵政グループ各社(以下、郵政)の最近の賃上げ状況を簡単に振り返ってみる。一昨年22春闘までは7年連続ベアゼロ回答。昨年23春闘ではベア5%。ベア5%は民営化後最大との報道もなされたが、その実体はわずか4800円の賃上げでしかなく、これに1回限りの特別一時金7万円を含めてのベア5%だった(厳密にいうと正社員全体にわたるベアと異なる部分は1000円のみ)。一般職、地域基幹職若年層にはこれにプラス2100円、さらに夏期冬期休暇を各2日、計4日削減した方でプラス1700円)。しかも非正規への賃上げはゼロだった。もうずっと非正規への賃上げは、運動の結果としての最賃改定によるもののみで、郵政が積極的に上げたことは一切ないままである。

ここ数年、郵政では正社員の労働条件切り下げ攻撃が続き、それとの闘いが大きな課題となっていた。まず18春闘で、郵

政労契法20条裁判、一審、二審の状況を横目に一般職の住居手当廃止が一方的に打ち出されて強行された。年末手当も廃止された。その後、扶養手当も一部削減された。そして20年10月、最高裁判決で非正規と正規との間に賃差がある労働条件格差が多くなる点で不合理、違法と確定したことで、郵政としてさらなる対応が迫られた。しかし21年9月、郵政が打ち出したのは最高裁判決に反するような、正社員にこれまで付与されてきた病気休暇・夏期冬期休暇の不利変更方針だった。逆「格差是正」攻撃である。

批判が集中

メディアはこれを大きく取り上げ、郵政内部のみならずあらゆる産別の労働者、労働組合からも批判が集中した。その中で22春闘において病欠休暇に関してはかろうじて押し返し、夏期冬期休暇も先送りとなったが、郵政内最大労組である日本郵政グループ労働組合(JP労組)は、この不利変更攻撃にまともな抗う姿勢を見せることができなかった。先送りされた夏期冬期休暇削減は23春闘であらためて焦点化した。結局、JP労組は「闘」は(労使の闘争ではなく)デフレ脱却などで一緒に闘うという「闘」である」として連合を持ち上げ、連合は連合でまんざらでもないという状況がある。本場に物価高を上回るような賃上げを勝ちとろうとするなら、それらもとも吹き飛ばすような、ストライキを前面に押し出した闘いができるかが問われている。

(浅田洋一)

耕作権裁判 請求を棄却せよ 訴えの根拠に疑いあり

市東孝雄さんの南台の農地を守る闘い、耕作権裁判闘争は、昨年11月から始まった証人調べで、3月18日に市東さんの本人尋問が行われる。この耕作権裁判は、昨年2月強制収用に至った農地裁判と同時期の06年に、NAA(成田空港会社)が市東さんの南台耕作地の一部を「不法耕作地」として明け渡しを求めた裁判だ。しかしNAA



芝山現地闘争でこぶしを上げる市東さん=左から2人目、2月28日

市東孝雄さんの南台の農地を守る闘い、耕作権裁判闘争は、昨年11月から始まった証人調べで、3月18日に市東さんの本人尋問が行われる。この耕作権裁判は、昨年2月強制収用に至った農地裁判と同時期の06年に、NAA(成田空港会社)が市東さんの南台耕作地の一部を「不法耕作地」として明け渡しを求めた裁判だ。しかしNAA

芝山現地闘争でこぶしを上げる市東さん=左から2人目、2月28日

できない。現場に

組合事務所に不当捜索 NPO 労組弾圧がねらい

関西合同労働組合とNPO法人長田の事務所(神戸市長田区)に2月15日朝、兵庫県警公安三課13名が押しかけ、不当

立ち会った組合役員が捜索中、警察官に「議員宿舎に住む政治家、長期出向者、自宅外通学生など全員自宅捜索をするのか」と追及すると、苦笑か「抗議すると沈黙し、抗議文を受け取った。不当捜索の謝罪と今後繰り返さないことを確約せよ」と求めたが、「適正な対応に則った捜索であり、回答しません」と電話で連絡してきた。

大阪、京都、滋賀、和歌山では、連帯ユニオン闘生支部の産別労働運動への不当な刑事弾圧が続いている。裁判官は労働法の刑事免責や民事免責の認識が欠如している。(刑法157条2項)。



事務所前に立ちあがる警官ら=2月15日、神戸市

大阪、京都、滋賀、和歌山では、連帯ユニオン闘生支部の産別労働運動への不当な刑事弾圧が続いている。裁判官は労働法の刑事免責や民事免責の認識が欠如している。(刑法157条2項)。

大阪、京都、滋賀、和歌山では、連帯ユニオン闘生支部の産別労働運動への不当な刑事弾圧が続いている。裁判官は労働法の刑事免責や民事免責の認識が欠如している。(刑法157条2項)。

元高槻市議・二本洋子さんの講演(1月16日)から。最終回では、15年間にわたる大阪の維新支配によって、教育と議会がいかに破壊されてきたかを明らかにする。

公立高校の削減

深刻な問題として公立高校の廃校化がある。

「私立学校も含めて授業料の無償化」は、府民サービスの向上と思いがちだが、騙されてはいけない。裏がある。

現在裁判中だが、維新は大阪市立高校21校を無償で府に移管し再編を考えている。その上で府立高校の定員割れが「3年続けば廃校」にするとして、2022年度までに17校の廃止を公表した。つまり私立高校を無償化する事で経済的に入学しやすくし、府立高校の定員割れを「誘導」して、その結果廃校に追い込むという計画である。教育の民営化はどういう結果をもたらすのか、確と見極めなければならぬ。

そして私が何よりも心を痛めているのが、夜間学校の廃絶化や朝鮮学校への差別と冷遇である。貧困や苦難の人生でやっと教育に巡り会えた夜間

学校の生徒が、「学ばたびに悔しく、学ばたびに嬉しく」と語られた場を奪うなんて断じて許せない。また朝鮮の植民地化の上に言葉も氏名もあらゆる民族性を奪った歴史を持つ日本が、朝鮮学校に必要な費用の全てを公

教育破壊と強権支配

奪われた「いのち・人権・文化・自治」

—大阪維新の15年を検証する(下)—

をせずに予算を執行する専権処分が非常に多い。2020年度の資料だが、全国の都道府県の専決処分率ワースト5は大阪府(46・8%)、埼玉(19・8%)、千葉(19・7%)、東京(17・9%)、福岡(13・4%)。ここでも大阪府は断トツ。約半分の議案が専決処分されている。正に独裁政治だ。どれほど維新によって議会制民主主義が蔑ろにされ、府政が私物化されているかよく分かる。

しかも維新が打ち出す政策の意思決定システムが全く不明である。大阪府特別顧問や特別参与制として27人体制をとって政策を決めているが、彼等は選挙で選ばれた人間ではない。すなわち府民の付託を受けていない。彼等は好き勝手に意見を言う一方で、その責任を

中でも上山信一氏は、運輸官僚、マッキンゼー・パートナー、東京都・大阪府・愛知県の顧問を歴任し、橋下知事の頃から維新と濃厚な関係をもっている。維新の看板である「副首都構想」では、上山氏は大阪府役所と共著で『行政の経営分析』を出版するなど、名実と

もに政策のトップとして絶大な影響力を持つ。彼等にとっては、自治体は「経営対象」であり、コスト優先は当たり前であり前提である。しかし、こういう「頭脳」にもとづいた府政から、「庶民のため」とか「弱者の立場」とかの発想が出てくるものだろうか。あり得ない。最後に大阪府政から離れるが、能登半島地震被災地支援の遅々とした歩みに「これは人災だ」と

言いたい。国政はもとよりだが地元の市町村の「限界集落が増える」とさらなる過疎化を心配して住民が語っていた。大阪の維新による政治の劣化は、大阪だけの問題ではなく今後、全国の問題となっていくだろう。

「平成の大合併」なるものがあり、石川県では41あった市町村が合併で19まで減らされ、当然公務員の大規模な削減、住民サービスの低下があった。これが被災者支援に

厚生労働省が在宅介護を支える訪問介護サービスを下げた(1月22日)。これに、全国的に抗議の声が起り、能登震災や万博中止問題とならぶ社会問題となりつつある。

介護事業所やヘルパー、利用者らでつくる市民団体から抗議の声が上がり、1週間ほどで全国の約360団体、2500人の賛同が集まった。日本ホームヘルパー協会と全国社会福祉協議会(全社協)は、今回の改定は、国が目指す「住み慣れた地域で安心して生活を続けられる」という姿とは全

影響しないはずがない。さらなる過疎化を心配して住民が語っていた。大阪の維新による政治の劣化は、大阪だけの問題ではなく今後、全国の問題となっていくだろう。

大阪万博が来年4月13日に迫っている。世論の70%以上が不要論を語っている。この状況に維新はどう立ちまわるのだろうか。民衆のための府政を取り戻そう!「おわり」(想田ひろこ)

4%黒字)を大幅に上回っていた」として、訪問介護サービス基本報酬を引き下げを開き直している。以下、この点にほぼして批判する。まず、厚労省が「根拠」としている「22年度の経営実態調査」だが、公表

「22年度の経営実態調査」は、アンケート回収率は42%に過ぎない。調査が「国勢調査」のような分厚い冊子に細かく手書きする方式になっており、老人ホームが1・0%の赤字だったのに対し、訪問介護は7・8%の黒字。ある管理者や経営者ならともかく、人手不足と

戦争反対、暮らを守る 全港湾大阪支部 24春闘 全港湾大阪支部の24春闘総決起集会が行われた(3月3日、大阪市内写真)。小林勝彦・大阪支



部委員長は、「24春闘は、戦争と物価高騰のなかでの取り組みだ。物価高騰が生活を苦しめている。そこを突破したい。世界では戦争が行われ、それを口実に憲法9条の戦争をしないという決意が政府と野党によって踏みにじられようとしている。琉球弧の島々への自衛隊の配備の動きを大阪でも実感できる。全港湾は、戦争協力の反省から「戦争をしない、させない」決意で結成された。戦争に

資金不足で駆け回っている小規模事業者には、対応する余裕がない。回収の時点で、多くの赤字経営の事業者がこぼれてしまっている。

次に、東京商工リサーチが1月17日に公表したデータによると、23年の「訪問介護事業黒字」のからくりについて2点。一つは、極端な人手不足の結果として、非常勤ヘルパーが高齢化などに

「22年度の経営実態調査」は、アンケート回収率は42%に過ぎない。調査が「国勢調査」のような分厚い冊子に細かく手書きする方式になっており、老人ホームが1・0%の赤字だったのに対し、訪問介護は7・8%の黒字。ある管理者や経営者ならともかく、人手不足と

なれば未来はない」と発言。続いて全港湾関西地方本部が「①企業の膨大な利益を労働者に還元させる②合理化・人減らしを許さない③各企業との協定を履行させる。④沖縄をはじめ港湾を軍事利用させないの4つの柱で闘う」と決意表明。

集会に参加した連帯ユニオン関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合合同、関西合同労働組合、社会民主党の代表が発言した。(高崎)

最後に、厚労省が論じる「訪問介護事業黒字」を進行訪問介護事業所と混同されていることだ。訪問介護は移動時間分には介護報酬は付かない。併設型は黒字に、逆に従来型は赤字になりやすい。本来は別の形態として扱われるべきものが同一視されている。

「22年度の経営実態調査」は、アンケート回収率は42%に過ぎない。調査が「国勢調査」のような分厚い冊子に細かく手書きする方式になっており、老人ホームが1・0%の赤字だったのに対し、訪問介護は7・8%の黒字。ある管理者や経営者ならともかく、人手不足と

崩壊する介護体制④

訪問介護黒字7・8%のウソ

これに対し、厚労省は「22年度の経営実態調査」は、アンケート回収率は42%に過ぎない。調査が「国勢調査」のような分厚い冊子に細かく手書きする方式になっており、老人ホームが1・0%の赤字だったのに対し、訪問介護は7・8%の黒字。ある管理者や経営者ならともかく、人手不足と

(淀川一博)

焦点

現実が語られない日本

「抑止力論」には根拠なし

「米国からの圧力」を軸に戦後を読み解いた『戦後史の正体』（創元社、2012年）の著者で元外交官の孫崎亨（つとむ）さんの講演会が2月11日、京都市内で開かれた。孫崎さんは「平和を創る道の探求」と題して、岸田政権の敵基地攻撃能力を軸とした大軍拡路線を鋭く批判した。（秋田勝）

世界は変わった

「今や世界の情勢が大きく変わってきている」と孫崎さんは話した。それは、購買力平価で見るとG7諸国の国内総生産（GDP）の総計を中国・ロシア・インドなどのBRICS諸国の総計が上回っていることに示されている。科学研究論文数の世界トップはいまや中国で、米国は2位に甘んじている。論文の質を示す引用数の統計でもトップは中国で米国は2位。日本はというと12位あたりで、韓国やイランの下位にある。これは「1980年代当時には考えられないような時代になっている」ということなのである。こうしたデータを日本の官庁が公式に発表しているにもかかわらず、「現代の日本は、こうした『正しい現実が語られない社会』に



「世界の情勢が大きく変わってきている」と話す孫崎亨さん
＝2月11日、京都市内

なってしまう」という。「それが一番に危険なことだ」と孫崎さんも指摘した。たしかに経済だけでは世界は語れない。「しかし孫崎さんは続ける。いた」のだ。「ところが今の日本はどうだろうか」と孫崎さんは問うた。

真珠湾攻撃の末路

いま盛んに論じられている「敵基地攻撃論」については次のように徹底批判した。

「歴史的な事実を振り返ってみればよい。過去、最も成功した敵基地攻撃とは何か。それは日本軍による真珠湾攻撃だった。日本軍は先制的に米軍基地を攻撃し、米兵数千人を死傷させた。ところがこの後どうなったか。日本は第二次大戦で壊滅的敗北を被り、数百万人の自国民を犠牲にした。これが敵基地攻撃なのだと、このことを知らなければならぬ」ということを知らなければならぬ」と。

日本社会の変化

日本の政治家のあり方や社会の雰囲気も大きく変わってきた。孫崎さんは、その一例として1975年の日本赤軍によるハイジャック事件をあげた。その時の人質解放の条件が刑務所で服役中の受刑者の釈放だった。当時の首相・福田赳夫は、「一人の命の重さは地球よりも重い」と言っ

黙殺された安倍発言

孫崎さんは22年のウクライナ戦争開戦直後の安倍元首相の発言に言及した。同年2月27日のフジテレビの番組で安倍氏は「ロシアがウクラ

インナを包囲していた時、もしゼレンスキーがNATOに加盟しないことを約束し、東部の二州に高度な自治権を与えることができれば戦争を回避することは可能だったかもしれない」「プーチンは領土的野心からではなく、ロシアの防衛、安全の確保という観点から行動を起している。もちろん私はそれを正当化しているわけではない。しかし

か、彼がどう思っているかを正確に把握する必要があると思う」と発言していたのである。

孫崎さんが山上主犯説に疑義を述べた著作を出版しようとする、出版社は露骨に難色をよせしめたという。そして「私はよく知られているように安倍首相の支持者ではない。誰よりも積極的に戦争法に反対し、反安倍の論陣をはって来た人間だ」と話した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

銃撃事件への疑問

孫崎さんは「ロシアがウクラ

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

日中共同声明が出発点

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

日本への侵略はない

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

孫崎さんは「戦争のつむむっていたら、正しい判断はできない」と強調した。

インフォメーション

3月24日(日)

講演会「私たちが変える社会は世界は」

ヨーロッパ・ドイツから見た「ニッポン」

午後2時～午後4時半

PLP会館 5階大会議室

(JRR大阪環状線天満駅/地下鉄堺筋線扇町駅下車)

資料代500円

講師：木戸衛一さん(大阪大学招へい教授)

主催：3・24講演集実行委員会

4月7日(日)

4・7全国同時アクション

不当弾圧許さない！ 決起集会

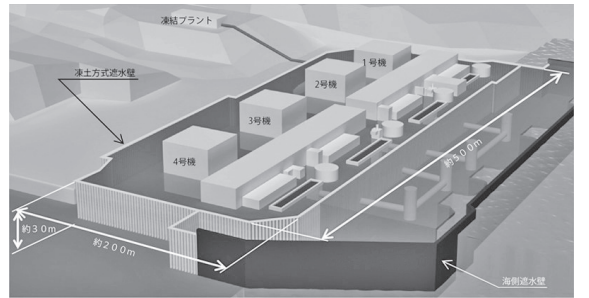
午後1時

●西天満若松浜公園(予定)※大阪地方裁判所南側
主催：労働組合つづしの大弾圧を許さない実行委員会

closeup

地下水汚染どう抑制？ 凍土壁では止められない

福島第一原発の事故にはないか。東電公表の「汚染水」の抑制について、建築家の竹山清明さん（2月18日、芦屋市内）の話を聞いた（2月18日、芦屋市内）。竹山さんは、ドーバー海峡トンネル工事のプロジェク



福島第一原発の凍土壁のイメージ

にも参画した土木・建築の専門家。福島第一原発の山側から、メルトダウンした原発の中を通り、海に流れる地下水の汚染をどう抑制するか、現状と対応策を土木・建築技術者の立場から次のように話した。

「まず政府・東電の排水抑制策は、どうなっているか。『原発手前側、海側のサブドレン（建屋近くの井戸）からの地下水汲み上げ（水を汚染源に近づけない、海への流れを抑制する）』地下に凍土壁を造り、原発周辺への地下水の流入を抑制する。しかし、井戸、薄い凍土壁では止められない。地中温度は0℃未満で推移している。マイナス30〜40℃くらいの凍結が必要だが、現状は凍結工法という名前だけで

土木建築専門家が指摘

遮水のための1.5メートル厚さの連続壁を内方5メートル程度離し、平行に設置する。高さはおおよそ25〜50メートルとする。コンクリート壁の間は土を除き、鉄骨の支柱や梁を入れ足場を設ける。壁の間に空間を設けるのは、しみ出す水の状況が不明になり止められず、遮水効果が薄い。

二重壁でコスト減

この二重壁の場合のコストは約30万円／㎡、支保工など約10万円／㎡。深さ平均40メートル、深さ1メートルあたりの工事費は、40万円×40メートル＝1600万円。総延長2100メートルを乗ずると約340億円、土木工事の経費をかけたも1000億円に収まるであろう。

東電や政府の最新対応策資料を入手し、対策案を練り上げた。反原発運動のみならず、市民にも情報発信し、できれば共有したい。社会的な働きかけ、マスクミ、政党にも。技術者の立場から「止められない」「なんとか抑制」「できれば避けたい」という言葉が。「核」と人類は共存できない」という核・原発の持つ深刻さ、それでも使うのか。科学や技術で解決できるのか。「核は廃絶あるのみ」を、あらためて思い知らされた。（竹田）

基地は造らせない

神戸の辺野古行動484回

2月24日（土）三宮・マリイ前。青空、いい天気。参加21人、署名11筆、チラシ配布は120枚だった。今日は楽器のオンパレード。ギター、サクソ、ジャンベ（太鼓）と賑やか。「いつまで腐った政治を許しているんだ」と元気のいいスピーチ。リリーススピーチでは「戦争にならないようにするのが人間の知恵」「アメリカが日本の空を支配する、こんな国は世界のどこにもない」など訴えた。手押し車に酸素ボンベを積んでの参加も。最後は「ガザに平和を」のスタンディング。3月2日（土）天気はよかったが、気温は10度を下回る寒い日。参加者は18人、署名21筆、チラシ配布120枚。三線を弾きながら何曲かの歌。太鼓でサクソとのコラボで「今こそ立ち上がる



あつという間に奈落へ

映画『夜明けまでバス停で』

監督・高橋伴明 2022年製作/91分/日本
第77回毎日映画コンクール・日本映画優秀賞受賞

2020年に起きた「渋谷ホームレス殺人事件」（被害女性は広島出身の64歳）をモチーフにしたフィクション映画である。被害女性は短大生時代には演劇に打ち込み、東京でコンピューター関連の仕事に就いた後、スーパーで試食販売員になった。事件の3年前に家賃滞納でアパートを退去して以来、路上生活だった。生活保護は受けていなかった。加害者により公訴棄却となり、真相不明がさげな



映画『夜明けまでバス停で』の一場面

三知子たちは、クビになり住み込みからも追い出された。あつという間にホームレスに陥ってしまった。三知子は、別れた連れ合いが彼女名義のクレジットカードで作った借金まで自分で返すという生真面目な性格。折り合いの悪い兄に頼ることもできなかった。地域でボランティアとしてゴミ拾いしている孤独な男が、ユーチューバーの「ホームレスは税金泥棒」という主張を鵜呑みにして、自分のテリトリーにあるバス停で仮眠をしながら三知子を疎ましく思う。道端のレンガをビニール袋に入れ、それを振り上げるシーンで始まる。ホームレス仲間には「バクダン」と呼ばれる

映画の主人公・三知子（板谷由夏）はアクセサリー作家。それだけでは食べていけず、焼き鳥屋のバイトをしている。コロナパンデミックで状況が一変、緊急事態宣言で閉店となる。「バクダン」と呼ばれる男がいる。ベトナム戦争の最中の学生時代、交番を爆破して逮捕された。三知子はバクダンに感化され、渡された「腹腹時計」を読む。手先の器用さを買われ、爆弾作りを手伝う。2人が爆弾を抱えて都庁へ向かって歩いていくスローモーションの場面は、落とし前をつけに行くヤクザのシーンだ。三知子とバクダンが仕掛けた爆弾はジョークだった。タイマーがゼロになると「目覚まし時計が鳴る。三知子は「犯罪者」にならずにすんだ。最後のシーン。男がレングを振り上げようとする直前で千晴が現れ、三知子に退職金を渡しエンディングになる。観ている者をほっとさせると同時に、ホームレスに落ちている三知子が観客自身と重なる。（石田勝啓）



基地ができたらかあかんの？」と聞きながら、署名した。その後「ガザに平和のスタンディング。三上智恵監督の映画『戦雲』が元町映画館で3月16日から4月2日まで上映される。2015年から8年かけ、沖縄・南西諸島をめぐる渾身の最新レポート。神戸行動は年中無休。484回目。（なかい）

三里塚の産直野菜

ネギのお好み焼き

うっかり置いておいたネギがしなびてしまう前に、お好み焼きのキャベツ代わりに、青いところ



三里塚「産直野菜」は有機無農薬。毎週・隔週、「お試しセット」あり。
【お問い合わせ】
TEL/0799-72-5242
関西実 E-mail/kanjitsu@mail@yahoo.co.jp

トガシさんの「沖縄便り」(75)

戦雲に抗する「埋もれ火」

三上智恵監督の映画 戦雲とは南西に連なる『戦雲』は、沖縄戦を生きた抜き、80歳半ばを過ぎようとしている山里節子さんが唄う「トゥバラーマの歌」から始まる。



彼女の創作歌詞は共通語に訳すると、「戦雲がまた湧き出てくるよ。怖くて恐ろしくて眠ろうにも眠れない。憎い戦争はならぬものだ」と詠い込まれている。トゥバラーマは、沖縄県の八重山群島に伝わる代表的な民謡。山里さんが現在の心境をトゥバラーマの曲に載せて歌った。

戦雲とは南西に連なる琉球列島の島々に自衛隊基地が作られ、民間の港から軍用車やミサイルが持ち込まれている状況であり、避難訓練が繰り返される今の状況をあらわしている。「台湾有事」によって、沖縄では戦争が、できる体制が「あれよ、あれよ」という間に造られてきた。

織り込まれ、戦雲ただよう宮古、八重山群島を始め琉球列島で闘う人びとの姿が浮き彫りにされている。

時々 晴れ間も見える

戦雲の漂いが顕著に見

え始めたのは、会館でミサイル基地拠点辺野古新基地建設市民反対集会(県内各地から参集) 反対運動の高揚期から数えて10年にもなる。だが、しだいに戦雲が覆う空にも時々晴れ間も見える。沖縄島東側に位置するうるま市石川東山区にあるゴルフ場跡地。そこに陸上自衛隊訓練場建設とは。

2月25日 元石川市議ら保革を超え結果。訓練計画の断念求めOB会結成。会長に元自民県議。2月27日 県議会、自民県議が政府に「うるま訓練場白紙撤回」を要求。2月29日 陸自訓練場大幅見直しへ。

うるま市の島ぐるみ 戦雲から一条の光が射してきた。もちろんそれで安心はできない。すぐに戦雲が覆いかぶさるだろう。政府は別途の防衛施設への転換を考えると

「身を切る改革」とやらは大抵ではない。公務員が多すぎるからと住民サービスが縮小される中、幹部職員は別として、自治体の正規職員が人件費の安い非正規雇用(ほとんど女性)に置き換えられているのは日本全国どこでも見られる傾向だ。こうすると賃金は正規職の3分の1から2分の1ですむ。

「身を守る改革」とやらは、その熱気を作り出す努力をしていた。集落への巡回写真展、映画上映、路上集会、署名活動など

【訂正】前号1面6段目左から2行目(誤)「殺物挑発」(正)「殺物徴発」

まい・しよっと (71)



祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり…猛きものもついに滅びぬ 誰もが知る平家物語の始まり。作家の大原富枝は「不思議な憂愁と一種の華麗さ」(大原訳本)と述べている。栄華を極め、猛き所業に不評を買った清盛が福原に遷都し、しばらく移り住んだ雪見御所が「この辺り」らしい。

(撮影：11月、神戸市内、mark)

川柳

和秋

川柳は平明がいい師の言葉 盗作ですが私の方が新しい 投げ出そうストレスなんかすぐ消える 葱なんか食べなくて死にません 遊びでも責任取ってもらいます 疲れたと十回言ってリフレッシュ へりくつをこねてミサイル買っている

短歌

小春

補聴器にマスクにメガネで耳痛し 一つの間にやらピアスは遠し ジェンダーを女の愚痴とのたまうか 生きにくさは男の君も同じだろう

ひとこと

街の中に戦国領主のお城があったとは。初めて知った。討ちつ討たれた兵どもが夢

声 追い込まれる非正規労働者

「身を守る改革」とやらは大抵ではない。公務員が多すぎるからと住民サービスが縮小される中、幹部職員は別として、自治体の正規職員が人件費の安い非正規雇用(ほとんど女性)に置き換えられているのは日本全国どこでも見られる傾向だ。こうすると賃金は正規職の3分の1から2分の1ですむ。

「身を守る改革」とやらは、その熱気を作り出す努力をしていた。集落への巡回写真展、映画上映、路上集会、署名活動など

「身を守る改革」とやらは大抵ではない。公務員が多すぎるからと住民サービスが縮小される中、幹部職員は別として、自治体の正規職員が人件費の安い非正規雇用(ほとんど女性)に置き換えられているのは日本全国どこでも見られる傾向だ。こうすると賃金は正規職の3分の1から2分の1ですむ。

「身を守る改革」とやらは、その熱気を作り出す努力をしていた。集落への巡回写真展、映画上映、路上集会、署名活動など

(当間三子)